論』が問う中間層への警告」
5．フジテレビ・プライムニュース（水野和夫ほか）2014 10/29 20:00
6．NHK・クローズアップ現代「人間のための経済学　宇沢弘文」 2014 10/30 19:30

還暦雑感
知らなかったでは済まされない時代に

苫小牧市医師会
むかわ町鵡川厚生病院　石　川　典　俊

未年生まれはおとなしく、周りをよく観察して慎重に行動する性格の人が多いと言われている。言葉を変えれば日和見主義とも言える。それ故、情報収集力がとりわけ重要である。昨今騒がれているTPP問題にしても「知らなかった」では済まされないのかもしれない。どこか幕末にも似て、今後子孫たちがどれほど影響を受けるであろうことか心配されているが、その内容や交渉風景は秘密裏に行われ、庶民が伺い知ることはできない。明治の混乱期、先人たちは大変な貧乏の中で西洋の文物を取り入れるために努力してきた。そして関税自主権等、自立した国家の利益を守るための権利を取り戻すためにおよそ50年を要し、多くの血や涙が流された。関税自主権が取り戻されて約100年、また国家の主権が危ぶまれている。

人は自分で考え判断しているように感じてはいるが、実はその社会や時代の風に影響を受けているものだということは社会学の常識である。人はその時代の風を受けて、その中でしか物事を判断するしかない。文字文化が一部特権階級のものであった諸外国と違い、わが国は漢字の導入に伴い、早くから庶民にまでひらがな・カタカナが広まって、書物や文字文化に対して深い思いがある。その分、新聞テレビ等マスコミが大衆洗脳の道具でもあることには無防備でもあるといえる。実際、某大手新聞のでっち上げ記事は、長い間日本の国際的信頼を大きく傷つけ、国内政治家すらも誤解したままの状態であるらしい。時代の風を読むのは至難である。

こういう時代、私たちはあらゆるものに懐疑的にならざるを得ない。しかし、幕末日本に密航し、日本人に初めて英語を教えたというマクドナルドは、日本人を誠意の人、書物の民と書き残してくれた。世界中を旅してきたが、最も素晴らしい国と絶賛していた。あれからおよそ150年、日本のたどってきた道は険しいものであったが、世界で最も道徳心の高い国と語られるようにもなってきた。先人たちの苦労も無駄ではなかったのかもしれない。万葉の時代から、家族の情愛が深く、誠を旨として生きてきた清雅なる国民性は失われてはいない。「お金で買えないものはない」のではない。むしろお金で買えないもの、目に見えないもの、お金で換算できないものに価値があるということに目覚め始めた時代でもあるかもしれない。多くの犠牲を払って手にした西洋の文物情報が、今や誰でもどこでも気軽に手に入り、むしろ日本からの情報発信が可能な時代になった。悲観的になる必要はないのかもしれない。

かつて幕末に吉田松陰は、「世界の中で盲目のまま立ちすくんでいるような心地がする、世界中に日本人を派遣して情報を集めることができたらいい」と願っていた。声の文化から文字の文化、そして映像の文化へと変わりつつあるが、世相の変化に抗して清雅なる心は失わなかった先人たちを思う。60年生きてこられたことを感謝するのみならず、先人の思いをつないでいかねばと思う今日このごろである。

西洋のことわざに「いつまでも羊のふりをしていると狼に食べられてしまう」とある。「知らなかったでは済まされない」時代にそろそろ羊の皮は脱がねばならない。ぬくぬくと温かい毛皮ではあるが。